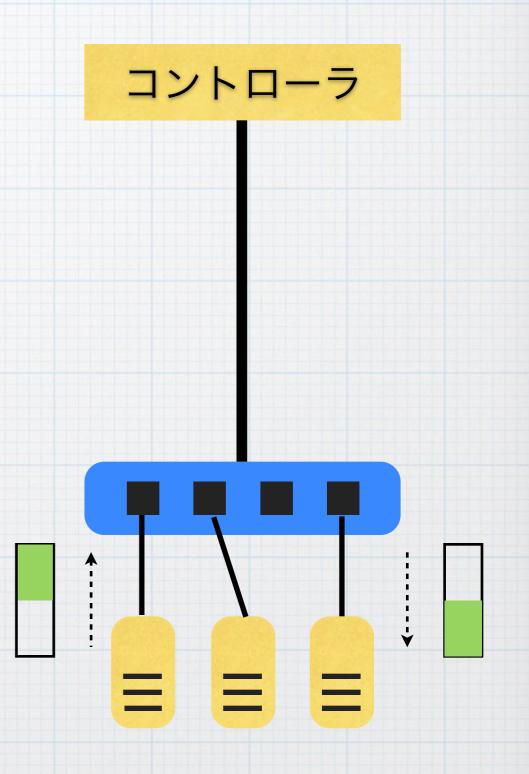
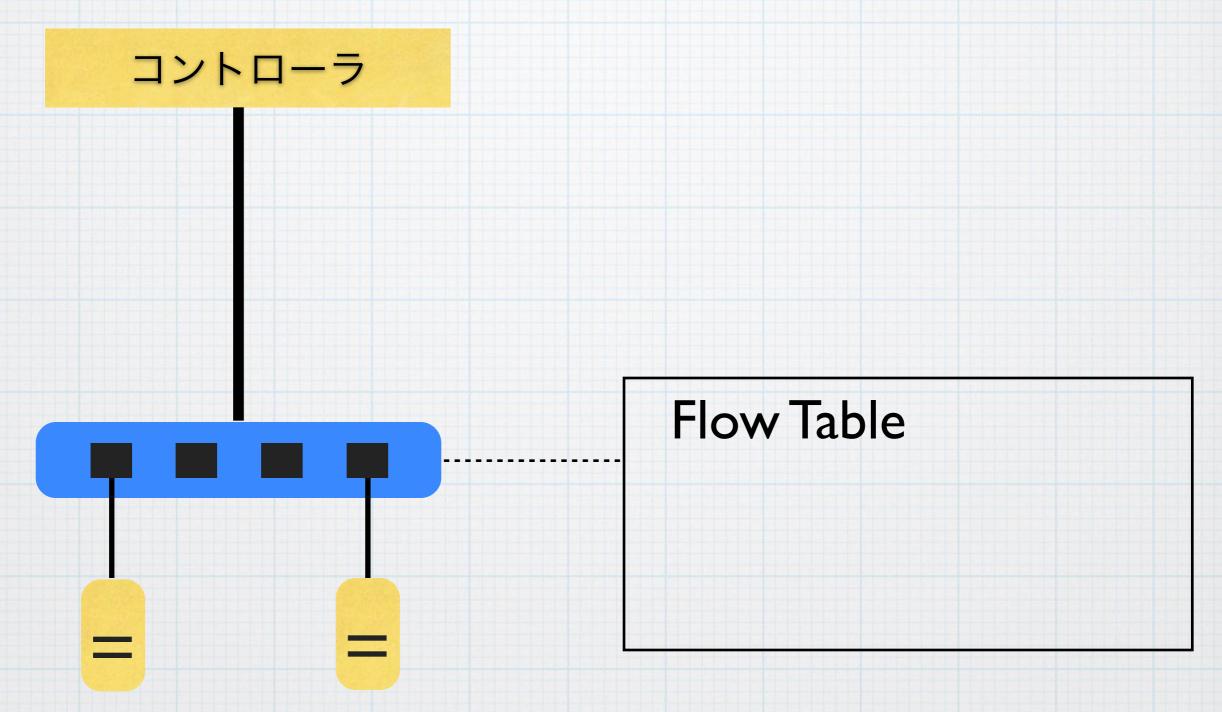
スイッチを作る前の 基礎知識



よくあるセットアップ



hostl

host2

00:00:..:01 00:00:..:02

192.168.0.1

192.168.0.2

Flow Table

パケットの処理ルールを管理する DB

- スイッチの HW として実装 (速い)
- 「宛先 MAC が 00:11:22:33:44:55 だったら ポート 3 番に出す」など
 - ▼マッチングルール:「○○だったら」
 - アクション:「xx する」

マッチングルール

- •ポート I 番から入ってきたら
- •送信元の MAC アドレスが
 - 02:27:e4:fd:a3:5d だったら
- •宛先の IP アドレスが 192.168.0.30 で 内容が HTTP だったら

```
send_flow_mod_add(
   datapath_id,
   match: Match.new(in_port: 1)
# ...
```

・ポート1番から入ってきたら

```
send_flow_mod_add(
  datapath_id,
  match: Match.new(
    ip_destination_address: '192.168.0.30',
    transport_destination_port: 80
```

・宛先が 192.168.0.30 で HTTP だったら

指定できる条件

- Ingress port
- Ether src
- Ether dst
- Ether type
- •IP src
- •IP dst

- •IP proto
- IP ToS bits
- TCP/UCP src port
- TCP/UDP dst port
- VLAN id
- VLAN priority

```
send_flow_mod_add(
  datapath_id,
  match: Match.new(in_port: 1),
  actions: SendOutPort.new(4),
  # ...
```

ポート1番から入ってきたら ポート4番に出す

アクション

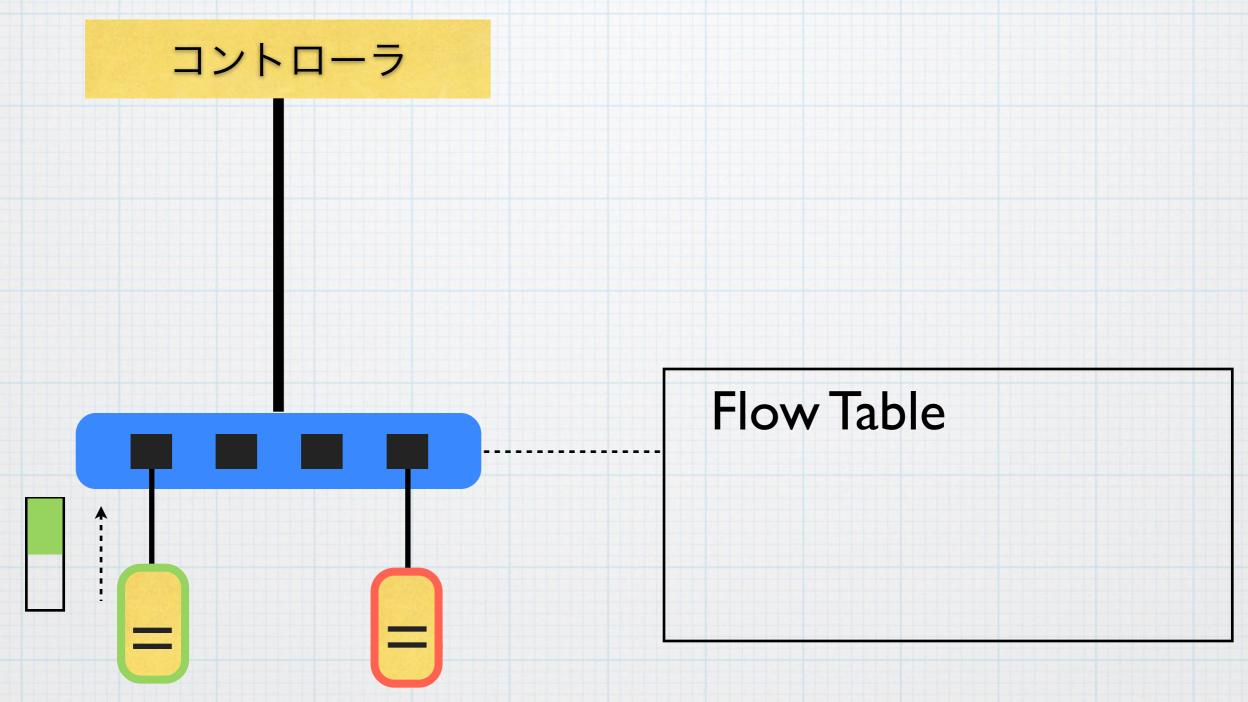
転送

• SendOutPort.new(ポート番号)

書き換え (Match と同じ I2 種類)

- SetEtherDestinationAddress.new(新しい宛先MACアドレス)
- SetIpDestinationAddress.new(新しい宛先IPアドレス)
- Etc.

- ・複数アクションが指定可能
- ・書き換え2回→転送



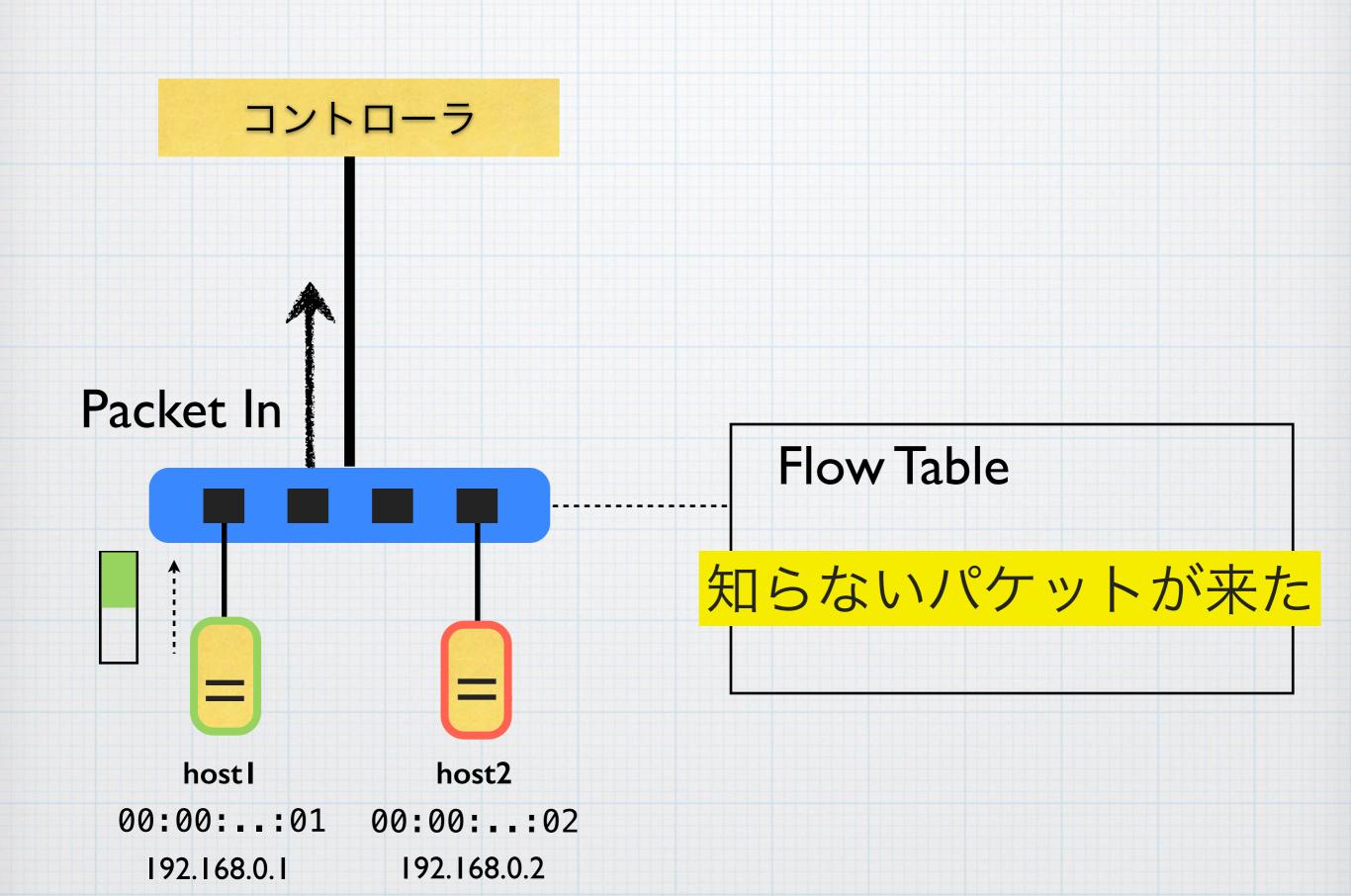
hostl

host2

00:00:..:01 00:00:..:02

192.168.0.1

192.168.0.2



Packet In

- フローテーブルで処理できない パケットを知らせるメッセージ* (PacketIn オブジェクト)
- "コントローラに指示をあおぐ" イメージ
- Packet In が発生すると遅くなる

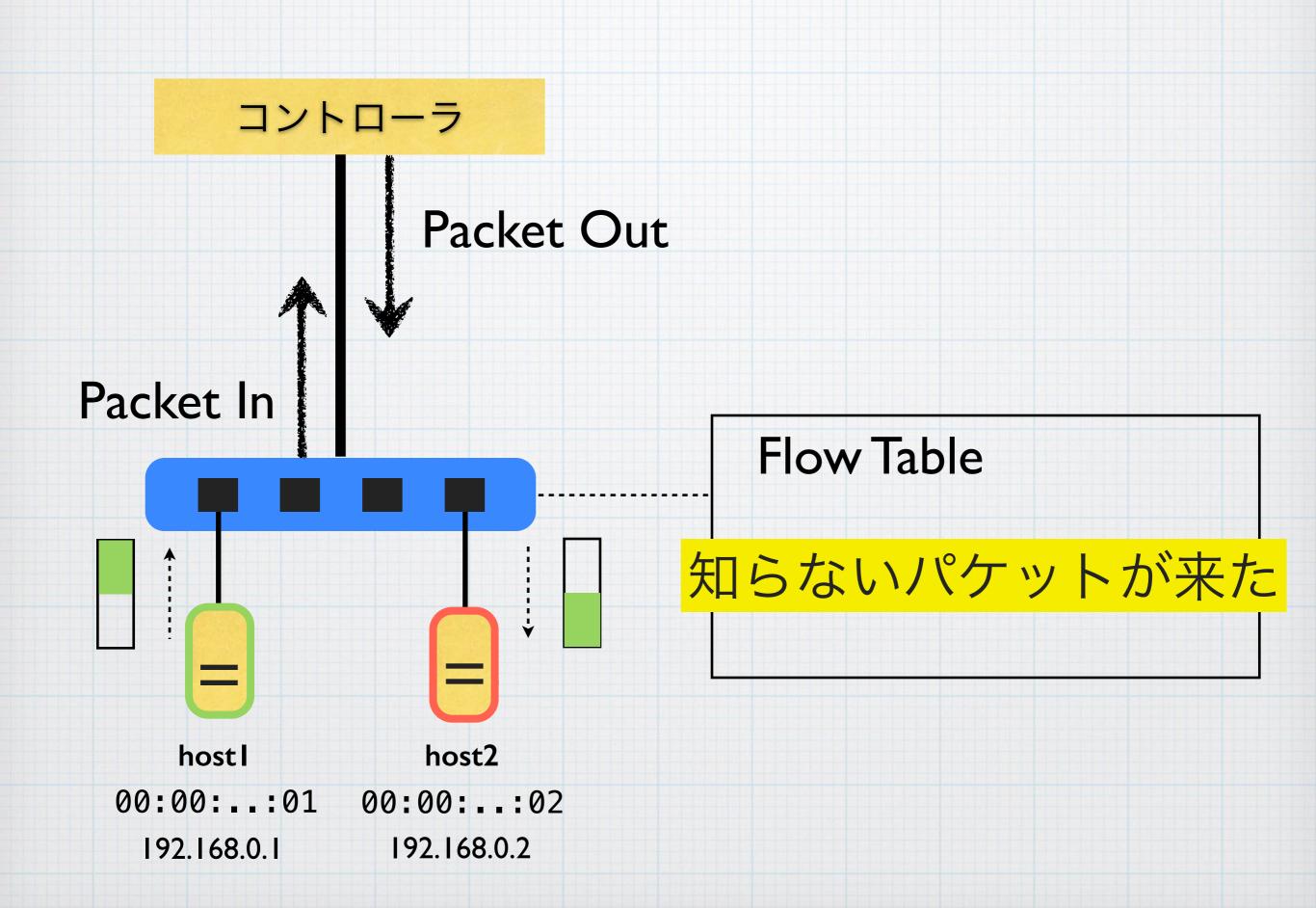
* OpenFlow1.3では動作が異なります

```
def packet_in(dpid, message)
# messageの中身を見て、
# ここで何か処理をする
end
```

- ・ハンドラで PacketIn を拾う
- ・message = PacketIn オブジェクト

```
% trema send_packets \
--source host1 --dest host2
```

- テストパケットの送信
- ・host1 から host2 へ送る

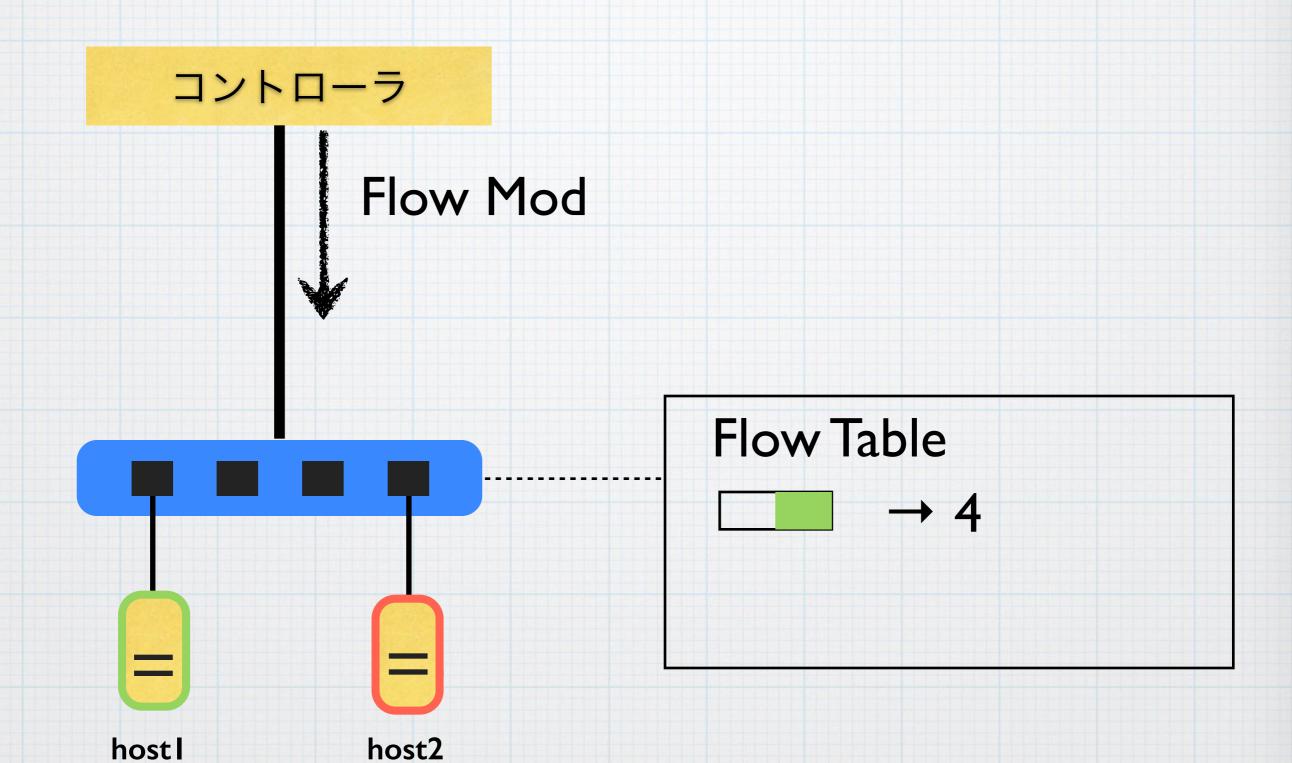


Packet Out

- (Packet In したパケットを) 指定したポートから出す (send_packet_out())
- ポートには物理ポートの他、 フラッディングなども指定可

```
send_packet_out(
   datapath_id,
   in_port: message.in_port,
   raw_data: message.raw_data,
   actions: SendOutPort.new(:flood)
)
```

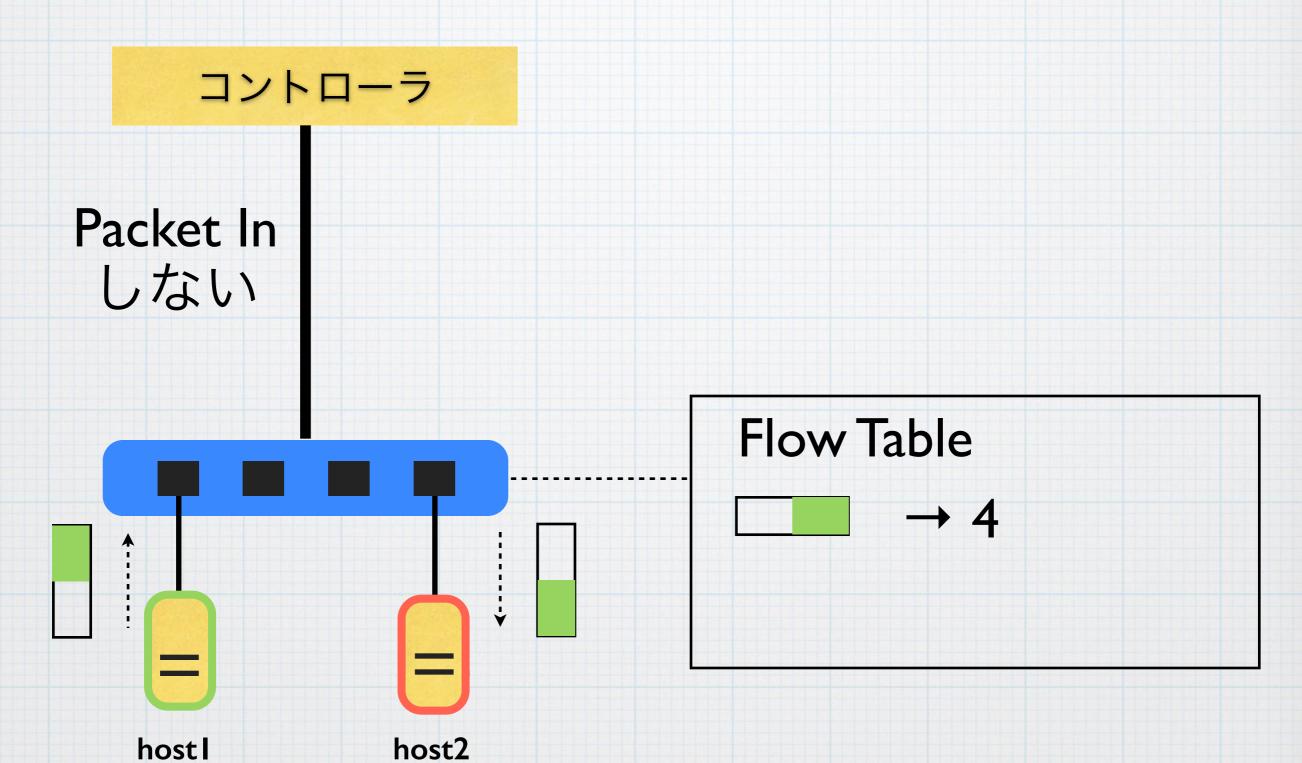
・PacketIn と同じパケットを、 すべてのポートから出す



00:00:..:01 00:00:..:02

192.168.0.1

192.168.0.2



hostl

00:00:..:01

00:00:..:02

192.168.0.1

192.168.0.2

Flow Mod

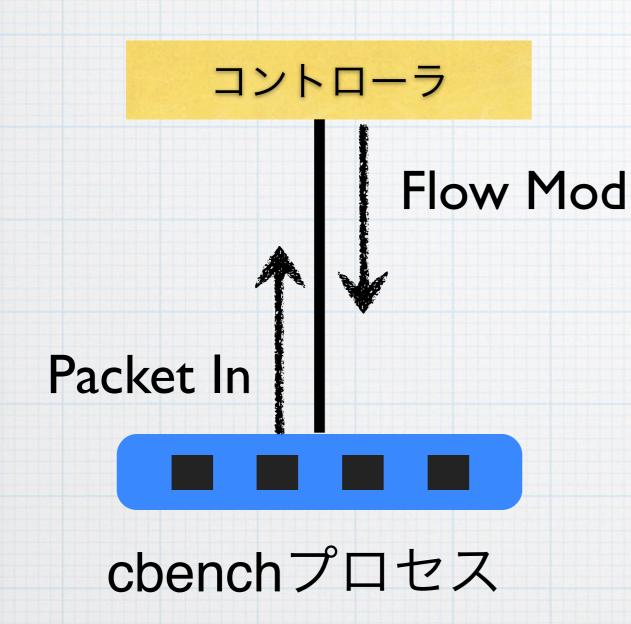
- フローテーブルを変更する
 - フローエントリの追加・変更・削除
- send_flow_mod_add() など

```
send_flow_mod_add(
  datapath_id,
  match: ExactMatch.new(message),
  actions: SendOutPort.new(4)
)
```

packet_in と同じパケットは、今後ポート4番に出す

% trema dump_flows 0xabc

- ・フローのダンプ
- ・Oxabcのフローテーブルを表示



課題

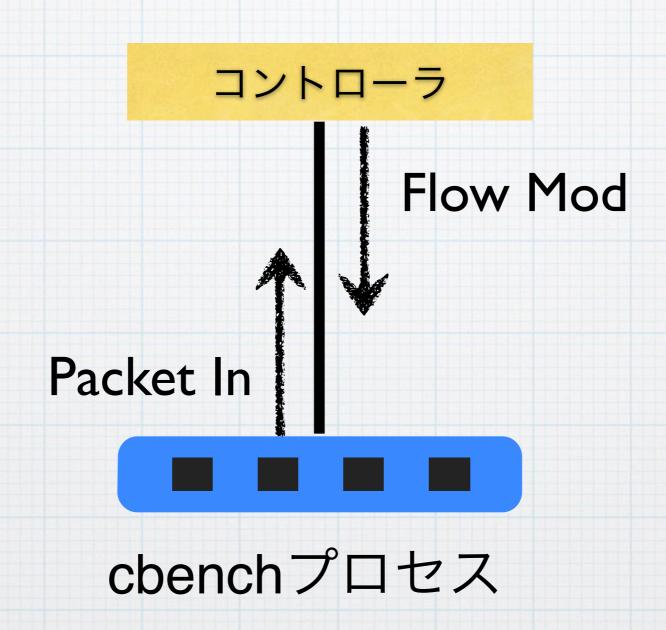
cbenchを

動かしてみよう

cbenchとは

OpenFlow用のマイクロベンチマーク

- cbenchプロセスがスイッチのふりをしてTremaに接続し、Packet Inを送りまくる
- Tremaは決められたFlow Modを返す
- 一定時間内にたくさん返したほうが高スコア



```
send flow mod add(
 datapath id,
 match: ExactMatch.new(message),
  buffer_id: message.buffer_id,
  actions:
SendOutPort.new(message.in_port + 1)
```

・cbenchに送るFlowMod

課題cbenchを実行

- https://github.com/handai-trema/ syllabusで、
 - 課題 → cbench をクリック
 - できたリポジトリを git clone
 - bundle install —binstubs
 - README の通りに実行

レポート課題

- cbenchを高速化してみよう
 - プロファイラでボトルネックを探す
 - "Ruby プロファイラ" で検索
 - (発展課題)ボトルネックを改善
 - cbench.rbやTremaを改造

まとめ

- OpenFlowの基本
 Packet In/Packet Out/Flow Mod
- テストパケットの送りかた
- フローテーブルのダンプ